

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第2回上越市立図書館協議会

2 議題等(全件公開)

(1) 報告事項

- ① 令和4年度 読書週間の実施結果について
- ② 令和4年度 図書館の上半期利用状況について
- ③ 第3次教育プランの素案について

(2) その他

3 開催日時

令和4年11月25日(金) 午前10時00分から

4 開催場所

直江津学びの交流館 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：赤松委員、上原委員、内田委員、大堀委員、小埜委員、高野委員、
西條委員、八田委員、保坂委員、松永委員
- ・事務局：小暮高田図書館長、大島副館長、丸山上席司書、山本係長、
渡辺直江津図書館長、内山上席司書

7 発言の内容(要旨)

<上越市立図書館条例施行規則第20条第2項の規定により小埜委員長が議長となる>

(1) 報告事項

- ① 令和4年度 読書週間の実施結果について

事務局 : 別紙資料1により概要説明

議長 : 令和4年度は以前と同じような状況か。増えているとか減っているとかはどうか。

内山上席司書 : 基本的に全館共通のブックリストの作成は変わらず行っており、それ以外の催しは、毎年企画を変えている。その年その年で実績が変わる

ため、一概に比較できない。

小暮館長 : リサイクルブック市については、普段は高田・直江津のメインとして行っていたものであるが、感染対策の面と分館の利用促進と合わせて、今回は高田・直江津では行わずに分館で行ったところ盛況で、浦川原と頸城をはしごする方もいたようなので、そこは効果があったのかなと思っている。

赤松委員 : 読書週間は毎年評判がいいから同じように行っているものと、単年度に目玉として行っているようなものがあるかと思うが、今年度、実施した中で、とても食いつきがよかったとか、評判が良かったというものがあつたら一つ二つ教えていただきたい。

内山上席司書 : 直江津図書館では「おすすめ絵本パック」、これは設置70パックのうち8割の貸出があつた。3冊抱き合わせで貸し出すというもので、それぞれのテーマごとに袋に貼って、時節柄、キャンプであるとか、テーマ設定もこれだったらみんな気になるかなというものを選んで3冊パックにした。「キャンプ」とか「忍者」とかは真っ先に借りられて、借りた後になって初めて中身が分かるので、この絵本は知っているけどこれは知らないとかいろいろ反響があつて良かったと思っている。

丸山上席司書 : 今回、読書週間の工作イベントを定例の分館のおはなし会の日程と合わせて行ったことで、おはなし会を皆さんに知っていただく機会にもなつた。また、リサイクルブック市が行われるということで普段、分館に行かない方が来館されて、分館のおはなし会に参加いただけただ事例があり、その点は良かったと考えている。

議長 : 先ほどの直江津の3冊セットにして貸し出すのは面白い試みだと思う。子どもたちに読ませたいけれどもどんな本を選んだらいいのかわからない親御さんはたくさんいて、この童話と関連した話でこういうのがあり、そしてその3冊を併せて読んでいく、そういう活動が図書館からサポートできるといいなと思うので、是非こういう取組を行い、また貸出冊数の減少が問題になっているとも思うので、こういう形で数冊ずつ借りてもらえるような活動が必要なのかなと思った。

八田委員 : 頸城分館の事業の「ブックカバーを作ろう」は、参加人数が45人で子どもと大人がほぼ半数ということは、多分親子で連れ立って来られたと思う。私はこの図書館協議会委員をやっていて感心しているところであるが、図書館に足を運んでもらうだけでなく、工作を絡めて、借りた本を使ってブックカバーを作ったりして、何かしら行っていくという試みがとても新鮮であるので、これは毎年、高田や直江津でも行ってもらいたいと思う。

小暮館長 : 今年直江津で無印良品とのコラボで「オリジナルバッグを作ろう」を行っており、高田・直江津では毎年こども祭で企画を考えている。今年のこども祭は、高田では飛び出す絵本カードを作った。今後もまた工夫していきたいと思う。

高野委員 : 9月の防災月間に合わせた防災をテーマにした取組を高田で行っていた。私の娘がちょうど犬を飼い、犬とか動物の扱い方という本があったのでこれはいいなと思って借りていった。タイミングが良くてとてもいい企画だと思った。

② 令和4年度 図書館の上半期利用状況について

事務局 : 別紙資料2、資料2-1、参考資料により概要説明

上原副委員長 : 資料2の利用実績の推移のところの下の表の一番下にある読書活動自主事業参加者数の推移が記載されているが、読書活動自主事業は例えばどのようなものであるか教えて欲しい。

丸山上席司書 : 参考資料の右側に書いてある、例えば塗り絵の実施とか、アルツハイマー月間にちなんだワークショップとか、そういう個々の事業の全ての参加者の積み上げと、定例のおはなし会や特別な1回限りのイベント、あとは外部に出かけてのイベント等も含めての参加者の人数である。先ほど説明した「浄光寺de縁日」などは、会場内の人数を全てカウントしきれものではないが、来場いただいて貸出を行ったり、貸出に繋がらなくても本をご覧いただいたりとか、こちらの説明を聞いてもらったとか、そういう方の人数もなるべく含めてカウントを取るようになっている。

赤松委員 : 資料2の上と下の表であるが、それぞれ9月末の人口が書かれていて、5年間にわたってどういう風に変わってきているかということが書かれていてとても分かりやすい。これがなくて、ただ5年間の例えば新規登録者数だけを見ていくと減っていると思うが、例えば人口で考えると当然人口も減っている、そういう中で平成30年度を100とした割合から見てこうなっているというのが、とても分かりやすく納得がいく部分だと思う。この見方でいけば、非常に頑張っているのではないかと思う。人口でいうと5年間で4パーセントくらい減っているが、その中であって貸出者数とか貸出資料点数とかとてもいいと思うし、健闘していると思っているので、こういう数字の見せ方が非常に分かりやすくとても良かったと思った。

内田委員 : 予約リクエスト件数とインターネットでの予約が増えているという話があったが、以前、リクエスト冊数を制限するという話があったかと思うが、それについての影響で何か気付いた点があったら教えていただきたい。

丸山上席司書 : 昨年度からリクエスト冊数は1か月の間に4冊までということで制限を設けた。この説明については第1回の図書館協議会的时候にもさせていただいたかと思うが、資料費が削減される中、利用者からのリクエストに応じていくと、予算を上半期で使い切ってしまうようなことになってしまっても困るので、そのような制限を設けさせていただいたもの。資料費の削減を受けて、リクエストのあった本を購入しないで相互貸借で市外等の図書館から借りる機会が増えたということで、資料2の相互貸借冊数(借受)の増と若干関係がある。予約・リクエストは一緒になっているが、予約というのは図書館で所蔵している本で、今は貸出中なのでご用意できたら順番にお貸ししますというサービスで、リクエストは現在図書館に所蔵していない資料を提供するサービスになる。資料費削減を受けて購入して受入れする冊数が減っており、特に、以前は人気のある本は、ある程度複数冊本を用意して対応してきたが、今はそういうことをかなり抑えている。そうすると人気のある本でも冊数が少ないので、必然的に予約で順番が回って

くるのを待つ方が多くなってしまいます。残念ながら資料費の削減が予約の増と関連があるのかなと考えている。利用者の声としては、やはり始めた当初は残念であるという声も聞かれたが、リクエストを利用されている方自身も、そのサービス自体はいいものであるとお考えであり、そのサービスが無くなってしまっても困るので、そういう状況の中ではやむを得ないにご理解いただいているのではないか。現在は、当初思ったよりも苦言はなく、また予約で提供できるまでに時間がかかるということについても、直接的に苦言をいただくことは少ない。皆さん我慢いただきながら利用されているのかなと考えている。

大堀委員 : 市の広報に図書館の存在をPRするような予定があるという話があったが、ぜひその中に、いろいろなワークショップなどの予定が分かれば、今後の活動予定も入れてPRの一つにしてはどうか。実際、図書館に来てみて初めてこういうことをやっていると分かることが多いので、それを事前に分かっていたら、親子でこんな催しがあるから参加してみようかという、先々の楽しみにも繋がるので、そんなこともPRの一環として記事の中に入れていただければと思う。

大島副館長 : 単純な図書館の利用案内だけでは読み物として面白くないという考えが広報の編集担当にあるので、何かしらに焦点を当てるとか、掘り下げるような形になってくるかと思うが、実のところ、そこはまだ確定していない部分である。我々も、例えばおはなし会であればいろいろな団体様にご協力いただいて開催しているので、まずはそういったおはなし会をPRする場にもしたいなと思っている。あとは来年度の広報で、連載記事の希望を出しているの、それをうまく使うことができれば、そういったイベントを紹介することはできると思っているので参考にさせていただきたく。

高野委員 : 広報上越12月号に読み語りジャックの会の「絵本とおはなしのへや」のPRが掲載され、それを見つけてうれしいと思った。今までは私たち個人で新聞社とかかわら版とかにお願いしていたが、広報に載せるとなると私たちではなかなか載せにくい。今回は図書館の協力で掲載してもらえてよかったので、是非これからもお願いしたいと思ってい

る。

議長 : 今のお話の最初はLINEやツイッターのことを言っていたかと思っ
ていたが、広報のお知らせのところにそれを載せていきたいというこ
か。

大島副館長 : 広報上越の1月号で特集が組まれる予定なので、その中に載せること
ができれば今後の催しの予定を入れたいと思っているし、当然、LINE・ツイッターはイベントの紹介などで、時期を見ながら引き続き
発信を行っていきつもりである。来年度の広報の連載についても確定
していないものになるが、そちらも時期を見ながらPRしていきたい
と思っているということをお話させていただいた。

議長 : 参考資料のところに分館へ足を運んでもらう試み、工夫というのがある
が、これは必要なことだろうと理解している。例えばリサイクルブ
ック市というのは、高田図書館にあるものとか直江津図書館にあるも
のを、分館に移して行っているという理解でよろしいか。

丸山上席司書 : 分館のリサイクルブック市については、高田図書館、直江津図書館で
除籍をした本で、リサイクルブック市で活用できそうな本について、
分館に移してそちらで提供するというを行っている。あとは、利
用者の方からリサイクルとして持ち込んでいただいた、ご家庭で不要
となった本や雑誌、また、図書館で保存期間を終了した雑誌などをそ
こで提供している。高田・直江津では大変たくさんの方が集まってし
まう可能性が高く、特に高田図書館では広い会場を設けることができ
ないためコロナ禍での開催は難しいが、頸城分館はユートピアくびき
希望館の玄関から続く、広々としたロビーから繋がる空間でリサイク
ルブック市を行うことができている。

議長 : 図書館の存在意義というような発言がどなたからかあったと思うが、
人口減少との比というところで説明できるところもあるとは思いますが、
いろいろな意見があると思うので、その存在意義を示すエビデンスを
しっかりと持っているほうがいいと思う。LINEや区の便り、ポス
ターを出したりすることで、どういう効果があったかが問われてくる
と思う。それは図書館の機能の問題でもあるので、何をしようとして

いるのか、本の貸出だけをPRしようとしているのかとか、人づくりに着目して、もっと図書館が持っている本と、利用者を結び付けようとしているのかとか、そんなことも次の広報1月号の中で触れて、ぜひ1月号をご覧になって図書館はやっぱり必要だと市民によく分かってもらえるような内容にしてもらえるといいと思う。

○第3次教育プランの素案について

事務局 : 概要説明(資料3)(非公開資料)

赤松委員 : これを見て、人づくりというところが大事にされている計画案だと思った。良い本に出会って心が動くとか心が育つとか、読むだけでなく、聞くとか作るとか、いろいろな活動をしながらい良い本に会えてよかったとか、図書館っていいなというような気持ちを持つ人づくりができれば、例えば学校を卒業しても、ちょっと遠いけれども忙しいけれども図書館を利用したい、本を読みたいというような人に育てていくのだろうと思う。まさに生涯学習の中で、充実した人生を送る一つの柱として、この図書館教育というか図書館があるというふうに私は自分なりに意味づけて今話を聞かせていただいた。特に文言について意見はない。ただ先ほどの図書館利用の実績の中で、予約・リクエスト、インターネット、相互貸借というのがものすごく伸びており、これを今後どのように考えていくのか、というのも大事な部分だと思う。国によっては、こういうオンラインの図書館サービスを重視している国もあると聞いており、例えばアメリカは広域だからオンラインで本の貸出というのは聞いたことがあるし、逆に直接来館する方を大事にしていこうという方向を目指している国もあると聞いている。日本がどうあるべきなのかはわからないが、例えば上越市は今のこのインターネットでのサービスが伸びてきている、あるいは市が広域であるとか高齢化が進んでいるというような中で、このインターネットでのサービスを、今後どのような方向に進めるのか、また、考えていったらいいのかというようなことも、この中には別に書く必要はないと思うが、今後、気に留めながらやっていく必要もあるのではないかと

感じた。

大島副館長 : 今ほど赤松委員からお話があったのは、電子図書館、電子書籍の貸出といった話に結びついてくるところかと思う。実情として上越市立図書館としては、今のところは電子書籍を導入する方向には至っていない状況である。経費がかかるため、すぐには導入できないという部分もあるが、まずは紙の本の良さというものを知っていただきたいというところが第一にある。ただ、若い世代をどう取り入れるかという点では、そういった目線を持っていないと新規の方の利用はなかなか伸びてこないところもあると思うため、課題として捉えている。今は県内の状況とか県外の状況も含めて把握をしている段階であり、もう少し今後の流れを見ながら判断していきたいと思うし、県立図書館の動きもあるので、そちらと調整を図っていきたい。恐らくこの教育プランの計画期間内には何かしらの方向性が出てくると思う。今の時点では第3次教育プランの中に書ききれない内容ではないため触れていないが、これからの時代にはそういった目線も持っていくことが必要だというのは十分課題として捉えている。

議長 : 非常に大切な発言だったと思う。生涯学習の柱になるような図書館、それは重要なことだと感じた。
第3次教育プランの抜粋を出していただいているが、実際のものもこのぐらいの分量か。

大島副館長 : 一つの取組に対して2ページぐらいの分量で同じような体裁で、いろいろな部署の事業が載っているものになる。この体裁になるのは基本的には間違いないと思うが、ここまでの間に当初と体裁が大きく変更になったり、いろいろな流れがあったりしたので、本当にこれで確定と言えるかどうか、まだはつきりしていない状況ではあるが、図書館関連の項目としてはこのぐらいのボリュームになる。

議長 : 12月下旬から1月下旬の間にパブリックコメントを行うということなので、その折にでも意見を出すことはできるが、今であればもう少し何か反映できるかなと思うがどうか。

(意見なし)

(2) その他

- 議長 : 冒頭の館長挨拶にあった高田図書館の第1会議室、第2会議室があつてそれを学習室に使えるようにする件であるが、10年くらい前は、図書館というのは学習する場ではないと、図書館の本を使って勉強するのはもちろん良いが、高校生がそこに行って試験勉強するところではないという話が聞かれたが、直江津はすでに学習席があり、そういう方向になっている中で、高田もその方向で行くということか。
- 大島副館長 : 図書館の在り方は時代時代で変わってきている部分がある。今の高田図書館がオープンした頃はインターネットがまだ一般的ではない時代であり、本を見て勉強するというのが主な利用者だったと思う。高田図書館でも一時は閲覧席の一部を学習席として提供していたが、指定の場所を超えての利用が問題となったため、図書館の利用についてはあくまでも図書館の本を使う方のための施設であるという原点に戻って学習席を廃止したということがあった。ただ、直江津図書館が移転したときには、そのあたりの考え方が変わってきたため、学習席を用意したものである。一方、高田図書館では新しく学習席を作るほどのスペースがない中で、県内では例えば長岡市や他の図書館で、施設利用の予約が入っていない日に、施設の有効活用という意味合いも含めて会議室を学習席として開放している事例があつたので、高田図書館で行うことも決して無理な話ではないと考えたものである。自習目的でも図書館に来ていいということになれば、そこから図書館の利用に繋がっていくことも多少はあることを期待し、会議室の開放を来年の春から行いたいと考えている。ただ、フリーに開放するのではなくて、利用前後に事務室へ声をかけてもらって、利用の管理はきちんとしていくことを予定している。
- 西條委員 : 今の話でいくと、利用者数をどう捉えるかということである。資料2には利用者数という形では出てきていない。新規の登録や貸出であつて、図書館の利用という点で我々が見たときに、資料2と今のお話のこれから目指していく図書館を考えると、利用者数なのか貸出点

数なのか登録者数なのか、そこが今聞いていてもあいまいな感じがしたので、今後この協議会等で議論する際には、学習室を使う人たちを含めた利用者数も整理していく、考えていく必要があるのかなと思った。

大島副館長 : 資料2の方で示しているのはあくまでも貸出の利用者数であり、図書館に来館された、例えば新聞を読みに来たとか、本を読んで借りないで帰ったというような、入館した数というのは別で把握はしている。ただそれが、図書館に来たのか小川未明文学館に来たのか、業者が出入りしたとかそのあたりの判別ができないので、いわゆる入館者数はお示ししていない。ただ、今後学習室としての利用が出てくれば、学習室利用の数はカウントしていくことになっていく。最終的には貸出利用者数が人口減少の中でも、ある程度の数字をキープする、もしくは伸びていくということが一番目指したいところではあるが、そこに行く前に、まず本に興味を持ってもらう、図書館に足を運んでもらうということ、そこから取り組んでいってそれが貸出利用者数に繋がっていくような方向を目指していきたいと思っている。図書館協議会の場としては、最終的には貸出利用者数に繋がっていく部分を重視していくことになると思っているが、まずは図書館に来ていただく方を増やすことから始めていき、その先の貸出利用者数、ということでご理解いただければと思っている。

西條委員 : そうすると、学習室へ来た高校生が、図書館をただ勉強する場としての利用ではなくて、そこから将来的に本に親しんでいくように持っていくとなると、学習室を設定したらそこで本の魅力とかそういったものをPRするような形をとらなければ、そこは単なる学習室として高校生が使って、皆さんが求めている図書館の利用には繋がらないのではないかなと思うので、学習室を設定するのであれば、今後どういう運用にするかを検討していく必要があると思う。

大島副館長 : 高田図書館の会議室は1階の玄関入ってすぐ右奥にあるので、そこを開放しても2階の図書館には行かないだろうということは我々も懸念していたところである。今の意見をいただいて、その場に図書館の利

用についてのPRを貼り出すとか、案内できるようなことを考えていきたいと思う。

議長 : 大変重要なお意見だったと思う。図書館の在り様が変わってきて複合的な機能を持つようになってきたので、それぞれの機能に対してどういう利用が行われているのか、ただ貸出の冊数だけでなく利用者がどういう動きをしているのかというのが分かるような形で把握されるといいと思う。

八田委員 : 高田図書館への学習室の設置という話が出ていたので私も話をさせていただく。高田図書館のご意見箱のところに貼り出されていた意見で、多分小さい子だと思うが、本を読もうと思ってテーブルに行ったが高校生のお兄さんたちがいて座れなかったとあった。おそらくテスト勉強をしていたものと思う。高田図書館の立地の状況を見ると近くに高校がいくつもあるから当然使う人たちというのはテスト時期に集中して来る人たちだと思う。だから学習席を作るというのもある意味、状況として必然的だとは思いますが、今後テストですごく混み合う時期というのは、自分が入れたけど友達が入れなかったとか、そういう不公平というようなこともあると思うので、一律に開放していくというのはちょっと控えた方がいいのではないかと考えている。

大島副館長 : 何か制限を設けた方が良くということか。

八田委員 : 多分、その時期になれば、もし空いているなら使いたいという話になると思うが、そうすると、その日行ったけれど入れなかったということもあると思うので、事前予約などきちんと周知していかないと、何かいろいろとトラブルにならないかと思っている。

大島副館長 : 今のところ事前予約は考えていない。高田図書館では学習席を設けていないが、今でもテスト時期になると早く来て席を押さえてしまうという行為が見られている状況である。とはいえ、自習をしたいために来たけれども席がなかったということでのクレームは今のところはない。学習室に関しては、限られた席であることを前もって周知し、あくまでもその範囲内での利用ということ、1階の会議室で、しかも予約が入っていないときのみという限られた場所と期日であるというこ

とを十分周知した上で、マナーを守ることを促していきたいと思っている。また、あまり混雑するときは、一人当たりの時間の制限とか、そういった対策も考える必要があると思っているので、なるべくトラブルがないような方法を考えていきたい。

八田委員 : ご意見を出した子どもさんというのは、図書館を利用しようと思って来ている。図書館の本を使って過ごすという、そういう目的で来ていると思うので、その利用者さんにとっていいものになってほしいと思う。

議長 : 図書館の先ほどの機能の話であるが、会議室のスペースは閲覧室から離れているので、図書館にとって非常に重要な活動ができる場所だと思う。いろいろな取組を計画して、そこに人を集めて図書館のことを知ってもらうとか、図書館を介した人づくりをする場所としてどんどん活用していけばいいと思っている。会議だけではなくて、いろいろな使い方、利用の仕方があると思うが、その利用方法を学習室として閉じてしまうと、図書館を使ったイベントができなくなってしまうことも考えられる。

大島副館長 : 会議室についてはあくまでも予約が優先となるので、この日は空いているということをホームページで事前に周知は行うが、周知後に予約が入ればそちらを優先するという形で周知していく。施設を借りたい方、つまり会議室としての利用が優先されるものと考えているので、学習席はあくまで予約が入っていないときに開放するものである。高田図書館の会議室の利用状況としては、予約が入るのは開館している日数の3割程度であり、残り7割くらいは会議室が空いているため、その期間を有効利用するというところで考えているところである。

議長 : 図書館がそこをどう使うのかによって、7割の分を有効に利用して市民に対して何か呼び掛けていくことができる場を失っていくことがもったいないということである。

大島副館長 : 学習室として使う予定であっても、何かを行う機会があれば、そちらを優先できるので、有効活用に取り組んでいきたい。

内田委員 : 最初の館長の挨拶の中であった司書の有資格者が不足しているという

話で今思いついた。保育士や看護師などで、ブランクのある人向けに、職業相談ということで集まってもらって説明会を行ったり、また、登録制度があったりすると思うが、司書の資格を持っている方も大勢いると思うので、1回集まってもらっていろいろな心配事を聞いてみたりするのも面白いと思ったし、例えば図書館とか大学とかで資格取得のための講座を開講するというのも面白いなと思った。学校に図書館としてブックトークに出かけていくだけではなくて、職場体験、職業紹介の意味も含めてこういう仕事もありますという企画も面白いと思う。中学生、高校生とか大学生とかで、本に興味ある子もいると思うし、小笠委員長の言葉ではないが、そういう意味での人を育てる、司書として働く人を作っていくのも面白いのではないかと思っている。

松永委員 : 11月15日に高田図書館の石平主任から講話をしてもらった。対象は、市内の小学校図書館教育担当の職員約30名ほどだったが、内容は市立図書館の現状と、ブックトークのやり方についての説明であった。小学校の図書館担当といっても、中には専門家もいるが、それ以外の方もいるので、本の専門家から来ていただくことができ、非常に参考になったと大変好評であった。学校と市立図書館が、こうやっていろいろな連携をしていくことがとても大事だと思っている。今回の第3次総合教育プランの中でも連携というのを大事にしていきたいと思う。学校で職員が子どもたちに教えるだけでなく、子どもたちが家に帰ったときに、図書館からきた先生がこんなに楽しいことを教えてくれたと話をし、その子どもたちがまた図書館に足を運ぶということで、学校と図書館、そして家庭を巻き込んだそういう活動が深まっていくととてもいいと思っている。今回参加した先生方も、校内の読書旬間で市立図書館を有効に活用しようとか、学習場面でも総合や社会科で、それに関係する本を選んでまとめて持ってきてくれるということなので、そういうことも利用していこうということで、先生方には役に立った研修会になったと思う。私たちは図書館との橋渡し役を務めていければと思う。

(議事終了)

事務局 : 次回の図書館協議会は2月末もしくは3月上旬頃を予定している。本日はありがとうございました。

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料もあわせて参照ください。